

令和7年度 都立小川高等学校 学校経営計画

1 目指す学校

【教育目標】

- ア 何事も忍耐強く努力し、あきらめない心の創造
- イ 礼節と思いやりに満ちた人間関係の構築と、社会貢献できる心の育成
- ウ 社会の変化に柔軟に対応する力と国際社会に向けて積極的に行動する力の推進

【スクール・ミッション】

何事も忍耐強く努力し、社会の変化に柔軟に対応する力と、社会貢献できる心の育成を教育目標とし、グローバルな視点をもって地域のコミュニティを支え、社会に貢献できるよう他者と協働するといった教育活動を通じて、一人一人が能動的に学ぶ姿勢を養い、新しい価値を創造できる生徒を育成します。

【スクール・ポリシー】

【グラデュエーション・ポリシー】

- (1) 実社会で活動するのに基盤となる学力・人間力・体力
- (2) 知識や体験を状況に応じて活かす能力
- (3) 自己の意見を発信する能力と他者の考えを理解する力

【カリキュラム・ポリシー】

- (1) 生徒の学ぶ意欲を高めるため、授業改善に努め、生徒一人一人の学力を高める
- (2) 3年間を見通し 組織的な進路指導計画のもと、生徒一人一人の能力を発揮させる進路実現を図っていく
- (3) 学校行事やホームルーム活動、生徒会活動、部活動等を通して、主体性、協調性、責任感を高め、心豊かで国際社会を生き抜くたくましい生徒を育成していく

【アドミッション・ポリシー】

- (1) 学校行事や部活動に積極的に取り組み、学校生活を中心に過ごす意志の強い生徒
- (2) 主体的に授業に取り組み、学力を向上させようとする生徒
- (3) 規則を守り、将来社会人としてのマナーを身に付けようとする生徒
- (4) 進路実現に向けて、チャレンジし続けようとする生徒
- (5) 自己の可能性を広げるために行動し、社会貢献をしようとする生徒
- (6) 国際社会に積極的に参加しようとする意欲のある生徒

II 中期的目標と方策

1 入学した生徒の学力に応じた学習支援体制の構築

- ・生徒の学力の組織的把握と指導方針の共通理解を図るため、学力分析会を定着させる。また、教科会を授業改善等の方策を検討する場として機能させ、組織的な学力向上の仕組みを構築する。
- ・資格・検定試験受験の機会を促進し、学校として、学力向上の取組につなげる。
- ・校内での多様な学びの場を整備し、生徒が学習に対して自走できる仕組みを構築する。
- ・グローバル教育を推進し、異なる文化理解や他言語による関係性の構築、豊かな国際感覚を醸成する。

2 生徒の自主性、自発性を育成する特別活動や部活動の推進

- ・本校が伝統的に培ってきた「生徒の自発的な取組を大事にする」ことを教職員が理解し、生徒委員会を十分に機能させ、生徒の達成感、協調性を醸成する。
- ・部活動等への所属を推進し、継続力、あきらめない心、達成感、自己肯定感、自尊心を培う場とする。

3 生徒の心身の健康の保持増進に努め、安心・安全な学校生活の実現に努める

- ・基本的生活習慣の確立について、教科・特別活動との計画的連携を図り、継続的・組織的な健康維持と体力向上を図る仕組みを構築する。
- ・生徒支援体制を盤石なものにする。生徒支援委員会の定例化、研修の充実、SC・YSW 等外部人材との連携を強化し、都の施策を活かしながら具体策を講じて対応する組織的機能を強化する。

4 組織的な進路指導体制と指導内容の充実

- ・進路、進学多様校に対応した体系的なキャリア教育全体計画の定着を行う。総合的な探究の時間・進路行事を一体化させ、計画的に実施し、第一希望進路実現を目指す。

- ・キャリア教育 3 年計画の質的改善を常に図り、外部人材や教育資源を有効に活用し、本校の特色や地域性を活かした「総合的な探究の時間」を構築し、組織的に機能させる。

5 本校の計画的・継続的・効果的な魅力発信による募集・広報活動の推進

- ・都立学校ならではの特色を整理し、本校の特色を一層明確に推進しながら、入学後の学校生活をイメージできる広報の一層の工夫と推進を図る。本校を第一希望とする目的意識を持った生徒の獲得を継続的に目指す。
- ・町田地区中学生数の減少を念頭に、町田地区からの受検を定着するため、近隣小中、自治体との交流や活動を活発化させるとともに、本校の知名度を上げ町田地区以外の生徒の獲得を目指す。

6 学校運営の積極的な検証・改善と組織力の強化・推進

- ・「西部学校経営支援センター特別指定校」「進路指導研究校」の指定を活かして、学力層の幅が広い本校の学習支援の仕組みを構築し、自走できるようにする。学校運営の質的向上と課題解決を目指す。
- ・人材育成を組織的に行えるよう、主幹教諭の組織マネジメント力の向上および中堅層の学校経営参画意識を醸成し、リーダーを育成する。教員の風通しの良い前向きな組織体制づくりを行う。
- ・デジタル活用による校務の効率化を推進し、ライフ・ワーク・バランスが実現できる環境づくりを目指す。
- ・経営企画室の経営参画意識の醸成、機能の充実を図る。予算の執行率の向上、予算の有効活用、施設・設備の修繕、増改修等を計画的に進める。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

下線部＝全教員による必須取組事項 ★重点を置いて実施

今年度の教育活動の目標	重点目標と方策
<p>1 学習指導</p> <p>【目標 1】 組織的な補習・講習の充実により、基礎学力の定着、伸長を行う。</p> <p>【目標 2】分析会・定期考査・課題テスト・模試結果等を分析し、授業内容と方法の検証と改善を行い授業力向上に資する。</p> <p>【目標3】 継続的な課題配信等、自主学習、家庭学習習慣の定着を図るための方法を実践する。</p> <p>【目標4】 教科会を中心とした「教科マネジメント」の築を行い、学力の一層の定着を図る。観点別評価の適切な実施と PDCA サイクルによる指導と評価の一体化を図る。</p> <p>【目標5】 資格・検定試験受験の機会を授業・学習の一環として確保し学力向上の取組につなげる。</p>	<p>方策 1 教科会で2回は補習、講習の講座を検討し、効果的な講座の設定を協議し、教科として計画的に実施する。</p> <p>方策2 教員間の授業見学を年3回以上実施する。若手教員の研究協議会に見学者として参加し授業改善に資する。</p> <p>方策3 教師道場、指導教諭の授業見学、教員研修(オンライン含む)を積極的に活用、受講し、授業改善を図る。</p> <p>方策4 授業の継続的な課題、小テストの実施により継続的な自主学習を促す。朝学習、週末課題等について、教科・学年それぞれで工夫、検討、実践する。</p> <p>方策5 自習スペース等の運用、放課後等の講習や講座の参加を促すなどの生徒の状況に応じた学習支援を行う。</p> <p>方策6 分析会の内容を教科会で共有し、科目ごとに検討する。授業方法や計画にフィードバックする。</p> <p>方策7 指導と評価の一体化を効果的にするため、観点別評価のブラッシュアップを図り、評価に反映する具体的方策を検討、実施する。</p> <p>方策8 発表する機会等、アウトプットする場を授業内に定期的に設け、課題解決、主体的に考える力を育成する。</p> <p>方策9 学力サポート委員会を中心に、教科の協力を得て、進路の幅を広げたり、将来に活かせたりできるように、英検はもとより、その他の資格試験を設定する。</p>

<p>【目標6】 図書館環境を整え、学習活動、探究、読書活動など様々なニーズに対応した推進の方策を講じる。</p> <p>【目標 7】 教員の知見とデジタルの力を最適に組み合わせた授業方法、学習方法を工夫し、学習を調整して学ぶことができるようにする。</p> <p>【目標 8】 「総合的な探究の時間」の組織的な活動を理解し、生徒が探究的なものの見方、考え方を身に付けられるよう指導助言する。</p> <p>【目標 9】 グローバル教育として、主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成、国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成、多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成等を図る。</p>	<p>方策10 英検全員受検により、英検受検意識の醸成を図るため1次合格後の2次試験の対策を検討する。</p> <p>方策11 英語授業で英検対策の工夫等、授業と関連させて目標を持たせ、学力向上につなげる。</p> <p>方策12 生徒図書委員の活用を活性化させ、読書活動の推進を図る具体的方策を検討し実践する。</p> <p>方策13 国語の授業でビブリオバトルを中心に、教科での図書館活用を促進、学習活動や言語活動の充実を行う。</p> <p>方策14 思考力・表現力等を高める学習活動(実技科目も同様)、協働的な学習、技能の振り返り等一人1台端末の授業での活用を効果的に取り入れる。</p> <p>方策15 「総合的な探究の時間」実施計画を進路部探究担当と学年が協力し、組織的に実施する。</p> <p>方策16 地域等に関わる体験活動、大学教授や外部人材を効果的に活用して効果を高める。</p> <p>方策17 「国際交流推進プロジェクト」を中心に、オンライン交流など交流機会の提供、都の研修機関の活用、留学等の支援など、多文化共生の体験等をできるところから検討し、実施する。</p>
<p>2 生活指導</p> <p>【目標 10】 規律正しい基本的生活習慣の確立、規範意識の向上のためにルールやマナー等について教職員全員で共通理解をし、指導する。</p> <p>【目標 11】 自転車通学ヘルメット着用率の向上に向け具体策を工夫する。</p> <p>【目標 12】 命の安全、犯罪の加害者、被害者にならないよう、情報モラルについて、学校教育の多様な場面で考えさせる取組を行う。</p>	<p>方策18 遅刻指導を実施し、遅刻者を、クラス月平均1人を目標とする。継続遅刻者に対する具体的対応策を保護者や生徒支援委員会等を活用し検討する。</p> <p>方策19 ルールやマナーについて、生徒会等を通じて活動内容を検討し、生徒主体の取組を実践する。</p> <p>方策20 服装指導の統一見解を周知、方向性を理解して教職員全員での声掛けや、機会を捉え一斉指導を実施する。</p> <p>方策21 自転車登校時のヘルメット着用率を向上させる取組を具体的に計画を立てて、学年と連携し年間を通じて計画的に進める。</p> <p>方策22 SNSの危険性と適切な使用についての講話や周知・徹底を継続的、計画的に行う。</p> <p>方策23 小川高校 SNS ルールを生徒視点で検討させ見直し、全校生徒に周知する活動を実施する。</p>

<p>【目標 13】 生徒の問題行動に関して早期発見と早期対応に努め、生徒が安心して学校生活を送れる環境を維持する。生徒の生活上の課題等を早期発見し対応する。</p> <p>【目標 14】 清掃・美化について、小川高校の環境美化の意識を高める。</p> <p>【目標 15】 防災教育の推進を行い、東京直下型地震に対する意識と知識を高めるとともに災害に関する「共助」の姿勢を身につける。</p>	<p>方策24 いじめの疑いがある場合には、すぐに「いじめ対策委員会」を招集し、組織的に早期対応と解決策を講じることを教職員に徹底させる。</p> <p>方策25 「生徒支援委員会」を月1回実施、生徒の発達課題や精神面、友人、家庭面等での課題を集約し、早期対応を実施する。</p> <p>方策26 スクールカウンセラーや YSW、エリアネットワーク等の人材を活用し、発達課題のある生徒に対する具体的な継続的な対応を検討、全教員で共通理解し対応を行う。</p> <p>方策27 美化委員会を機能させ、年間で活動できるよう工夫し、継続的な生徒による美化の推進を行う。</p> <p>方策28 防災教員推進委員会を 2 回以上実施し、地域と連携した防災訓練の計画や、年4回実施する避難訓練の在り方を再検討し、実効力のあるものにする。</p>
<p>3 特別活動・部活動</p> <p>【目標 16】 生徒会を中心にした主体的な取組を支援し、学校行事を充実させる。</p> <p>【目標 17】 日本の伝統文化を理解し、発信する取り組みを積極的に行う。</p> <p>【目標 18】 部活動ガイドラインに沿って活動を行う。また、部活動に所属し、学習以外のことに挑戦し継続力を付け、学習と部活動が相乗効果となるように、メリハリのある指導を行う。</p> <p>【目標 19】 部活動地域移行を視野に入れ、中学生との部活動交流や連携を図る。また、部活動から地域連携を促進する。</p>	<p>方策29 生徒会が生徒組織のトップである自覚を持たせ、課題を解決したり、提案をしたりしていくなど、生徒が、自発的・主体的に取り組めるよう指導する。</p> <p>方策30 生徒会、各委員会をさらに機能させる。小川高校への帰属意識を高め、自発的に取り組み、成功を実感できるような取り組みを計画する。</p> <p>方策31 国際理解教育の一環として伝統文化推進に取り組む。文化部、委員会を中心に、日本文化の紹介、実践を校内外に限らず挑戦する。</p> <p>方策32 部活動ガイドラインをもとに活動を実施し、適切な活動時間管理や熱中症対策、休息等の確保を行う。</p> <p>方策33 将来的な部活動地域移行を念頭に、小中学校との交流等を積極的に行う。また、地域行事に積極的に協力し連携をする。</p>
<p>4 健康づくり</p> <p>【目標 20】 生徒が心身ともに健康で安心・安全に学校生活を送れるよう環境を整える。生徒が自主的に健康維持できるように講演会や指導の工夫を行う。</p>	<p>方策34 生徒の健康課題を主体的に解決できるような保健だよりの定期的発行を行う。</p> <p>方策35 行事等により「命の安全教育」を推進し、社会生活において生命を尊重する・人権を尊重する精神を養う。外部人材を活用した講話等で、生徒への意識啓発や具体的な健康維持の取り組み方を教示する。</p>

<p>【目標21】 授業や体育祭、マラソン大会等の行事、部活動等、教育活動全体で健康に関する知識の醸成や実践力の定着、基礎体力の向上を図る。</p>	<p>方策36 授業内で食事・運動・睡眠等、健康に関わる分野を扱う際には、自分事としてとらえ、実践できるような指導の工夫を行う。</p> <p>方策37 基礎体力向上につなげるため、体育では、教科で統一して授業内で筋力トレーニングや柔軟性を高める運動等を取り入れる。</p> <p>方策38 体力テストのデジタル化に伴い、データをもとに具体的な到達目標を設定させ取り組む。</p>
<p>5 進路指導</p> <p>【目標 22】 生徒の実態や新大学入試制度、共通テスト等に対応した、進路ガイダンスのプログラムを充実させる。</p> <p>【目標 23】 教員の進学指導力と教科指導力を高め、生徒の進路希望を妥協させず実現ができる指導、支援を行う。</p> <p>【目標 24】 生徒一人ひとりの学習状況や進路希望状況を踏まえた 3 年間を見据えた進路面談の充実を図る。</p> <p>【目標25】 進路に対する意識を喚起させることで「第一志望」の進路実現を支援する。</p>	<p>方策39 大学等、外部機関の有効活用により、段階に応じた進路ガイダンス、進路説明会に計画的に取り組む。</p> <p>方策40 進路部と学年との連携を密にし、進路行事の参加等、取組の趣旨を理解し、組織的に効果的に指導する。</p> <p>方策41 学習サポート委員会が計画を整理し、進路部で策定した模試の年間実施について説明し、組織的に分析会や、生徒の模試振り返りを実施する。</p> <p>方策42 課題テスト、模試分析会の結果を、面接指導に活かして、進路希望を保護者や生徒と共通理解をしながら検討する。</p> <p>方策43 担任団で面談実施時期と回数を検討、時期に応じ面談の内容を確認し実施する。2年は、1度は必ず三者面談を、3年は、1学期終了までには全員と三者面談を実施する。</p> <p>方策44 進路部は、生徒の指導に活かせるよう、総合型選抜はじめ、各受験方法に対する情報提供を十分に行う。保護者会での進路関連の情報提供も行う。</p> <p>方策45 進路に対する目的意識を高めるため、3年生の「第一希望進路宣言」を行わせる。教員も生徒の第一志望を念頭に、指導や支援を行い進路実現に関わる。</p> <p>方策46 ハローワークや東京仕事センター等と連携した職業体験・しごとセミナー・職業紹介・面接練習および職場訪問等で、就職希望の実現を支援する。</p> <p>方策47 全員での協力体制で、学校見学・説明会、体験授業、部活動体験および「進路 EXPO」の参加、東京都 PR 事業などを有効に活かし、募集活動に取り組む。</p>
<p>6 募集・広報活動</p> <p>【目標26】 外部説明会、学校説明会・学校見学会等の機会を積極的に利用し、参加者を増やすことで、受検生に本校への理解を深めてもらう。</p>	<p>方策48 生徒主体の説明会を一層充実させ、生徒の姿を積極的に見てもらえるような説明会を工夫し、本校の良さを発信する。</p>

<p>【目標27】 本校に関する情報を的確に・迅速に、かつ興味を持ってもらえるよう組織的・計画的に教育活動を発信し、第一志望の受検生を確保する。</p> <p>【目標 28】 文化・スポーツ等特別推薦の活用により、本校の活性化や他の生徒の模範となる受検生確保に尽力する。</p>	<p>方策49 町田市を中心に、八王子、日野、多摩南部等の説明会参加や塾訪問を行い、生徒獲得の地域の開拓を行う。</p> <p>方策50 学校の特色を教員が共通理解し「情報発信推進委員会」と連携し、ホームページの組織的更新300回を目標にする。</p> <p>方策51 文化・スポーツ等特別推薦の趣旨を説明し、体験入部等で、本校の取組と推薦の趣旨を理解させ、リーダーとして活性化できる生徒の確保に努める。</p>
<p>7 学校経営・組織体制</p> <p>【目標29】 組織的な学校経営を推進するため、全教職員の情報共有を徹底する。業務の効率化により・ワーク・バランスの推進を図る。</p> <p>【目標30】 体罰、暴言、セクシャルハラスメントをはじめとした各種ハラスメントがない職場を目指し、教員間のコミュニケーションを円滑なものにする。</p> <p>【目標31】 サービス事故防止研修を実施し、個人情報保護等をはじめ、サービス事故未然防止の校内体制を構築、維持する</p> <p>【目標32】 学校運営連絡協議会の機能を活用し、保護者、同窓会、地域等の意見・要望を学校経営に積極的に反映させてより良い学校経営を目指す。</p> <p>【目標 33】 経営企画室職員が、経営参画の意識を持ち各担当業務を経営企画室長の監督・指導のもと、計画的・効果的に遂行する。</p> <p>【目標 34】授業料・学校徴収金について 収納及び執行管理を行う。公的支援に関して、確実な周知と適切な対応を行う。</p>	<p>方策52 機能していない業務整理をすることで時間の捻出、効率化を果たし、働き方改革に分掌ごとに取り組む。</p> <p>方策53 各種ハラスメントの理解を促し、セルフチェックできるようにすることで未然防止を図る。メンター制度や相談員の活用により、課題の早期対応を行う。</p> <p>方策54 校内研修の実施や、企画調整会議等のレジュメにより、具体的な事例を理解させ、意識啓発、事故未然防止を日常の観察や工夫、声掛け等で徹底を図る。</p> <p>方策55 学校評価アンケートの回収率を高め、学校経営に十分反映させる。各主任は、課題に早期に着手する。</p> <p>方策56 学習活動に係る予算を中心に必要な品目を重点的に予算配分し、予算編成・執行を行う。センター執行分の落差金を有効活用し、物品等を充実する。</p> <p>方策57 施設設備・備品を適正に管理し、有効活用する。安全確保や美化・衛生に努める。</p> <p>方策58 「学校徴収金基本計画」に基づき、未納者に対しては迅速な督促を行い、早期納入に努める。就学支援金・給付型奨学金・多子世帯における授業料等支援事業等の制度について周知する。</p>

IV数値目標

項 目	数値目標
1 学習指導 ①教科会の実施 ②相互授業見学年間3回以上 ③教科による模試等分析 ④家庭学習・自主学習時間1日1時間以上 ⑤授業でのICTの活用 ⑥英検準会場実施 ⑦英検2級・準2級プラス・準2級合格者数 ⑧英検1級・準1級合格者数 ⑨月2冊以上本を読む生徒 ⑩国際交流等の取組 ⑪授業満足度 ⑫「総合的な探究の時間」は、「自己や人間関係を考えるきっかけとなった」 ⑬「自分の将来を考えるようになった」	① 年10回 ② 100% ③ 年3回 ④ 50% ⑤ 80% ⑥ 1回以上 ⑦ 90名 ⑧ 5名 ⑨ 20%以上 ⑩ 年3回以上 ⑪ 90% ⑫ 90% ⑬ 90%
2 生活指導 ①遅刻者数 クラス月平均人数 ②「学校の規則を守っている」 ③「時間の管理ができています」 ④「挨拶ができています」 ⑤「情報モラルを理解している」	① 1人以下 ② 100% ③ 95% ④ 95% ⑤ 100%
3 特別活動・部活動 ①「部活動加入率」 ②部活動による地域貢献 ③「学校行事を通して、精神的に成長したり、協調性や団結力が育まれている」 ④「自発的・自治的な活動が展開されている」 ⑤体罰ゼロ	① 80%以上 ② 年3回以上 ③ 95% ④ 90% ⑤ ゼロ
4 健康づくり ①生徒支援委員会開催 ②特別支援に係る教員研修 ③命の安全教育や人権尊重教育の実施 ④特別支援エリアネットワークとの連携 ⑤「生徒の悩みに適切に対応している」 ⑥「いじめをなくすために積極的に取り組んでいる」	① 年間10回 ② 年1回 ③ 年1回 ④ 年1回以上 ⑤ 90% ⑥ 100%
5 進路指導 ①1年二者面談 ②2年・3年二者面談・三者面談 ③第3学年第一希望宣言の実現率 ④「進路関係の資料や進路講話などは充実している」 ⑤「進路指導は1学年から計画的に行われている」 ⑥業者による全体模試分析会 ⑦3年ケース会議 ⑧日東駒専現役合格者数 ⑨GMARCH現役合格者数	① 2回以上 ② 二者面談2回 三者面談1回 ③ 80% ④ 95%以上 ⑤ 90%以上 ⑥ 2回以上 ⑦ 1回以上 ⑧ 60名 ⑨ 20名
6 募集・広報活動 ①ホームページの更新 ②学力検査応募倍率 ③学校見学会・説明会中学生参加者 ④中学校への出前授業等の実施	① 300回 ② 1.3倍以上 ③ 3000名 ④ 5回以上
7 地域交流等 ①「地域との連携に協力的」	① 95%
8 学校運営・組織体制 ①服務事故ゼロ ②進路変更・中退者数 ③給与等支給明細電子化 ④センター執行率 ⑤学校徴収金未納者	① ゼロ ② 5名以下 ③ 95% ④ 60% ⑤ 0人